



戦後は国内の道路網整備の波に乗り高成長を遂げた（酒井重工業提供）

【企業メモ】1918年5月に創業。45年に空襲で工場を焼失したが46年に事業再建した。戦後はロードローラーで事業を拡大、折からの高度経済成長と道路網整備の波に乗った。国内ロードローラー市場で7割という圧倒的なシェアを誇る。

不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなぐ

酒井重工業は2018年5月に創業100周年を迎えた。道路舗装機械のロードローラーでは国内シェア7割の最大手で北米や中国、アジア、中近東方面でも売り上げを伸ばしている。

酒井一郎社長は中長期経営方針で「道路建設機械に特化した世界一流のグローバルニッチ企業を目指す」としている。世界の建設機械産業のうち、道路建設機械の割合は約3%。小規模な市場で他社が参入しにくいことから基礎地盤を固め、圧倒的な競争力のもと

酒井重工業

道路建機、ニッチで世界狙う

で海外市場の拡大とともに継続成長を目指すというものだ。

同社は1918年（大7）に輸入自動車・機関車の整備を目的に設立した。27年に森林鉄道用機関車、29年からロードローラーの生産を開始し、メーカーとして歩み出した。45年の東京大空襲で工場を焼失したが戦後に再建。国内の道路網が整備されるにつれ、道路建設機械に事業をシフト。世界130カ国以上にロードローラーを輸出し、64年に東証2部、81年には同1部への上場を果たした。

順風満帆に見える同社だが、90年代のバブル経済の崩壊で転機を迎えた。公共投資が半減した上に円高が進み、売上げが激減。国内工場統廃合を進める一方、95年から2003年にかけてインドネシア、米、中国と相次いで工場を建設し、グローバル生産体制を確立した。

酒井社長は「グローバル化に伴い46年制定の国土開発に貢献する社是を『世界の国土開発に貢献』と変えた」と笑う。途上国では道路が未整備で雨が降ると地域が孤立するなど、産業発展や物資輸送に影響が出ている。それだけに「良い製品を安く、早く、丁寧に作り、社会的存在意義を追求する」（酒井社長）と前を向く。